この夏、久慈に肉食恐竜 出現！

アロサウルスと一緒に「ガオッー！」

アロサウルス現る

国立科学博物館は6月27日から8月7日までの間、久慈琥珀博物館を会場に「科博震災復興コラボ・ミュージアム」を開催。東日本大震災の被災地域の博物館と連携し、国立科学博物館が所蔵する恐竜全身骨格標本などの展示や講演会、体験教室など文化的な面からの復興支援を目的としています。

展示されたのは中生代ジュラ紀に生息していた大型の肉食恐竜「アロサウルス」。その大きさは高さ2㍍、全長7㍍。アメリカ・ユタ州で産出された本物の化石で、アメリカに渡った実業家の小川勇吉さんが母国のために寄贈したものです。

骨格の組立を見学

6月25日、恐竜アロサウルスの公開組み立てが開かれ、小袖小学校の児童21人が見学しました。大型のトラックから慎重に運ばれてくる箱の中から黒光りする化石が次々と現れると児童らは興味深々。少しの振動でも壊れてしまう本物の化石に、組み立てるスタッフの表情は真剣そのものです。アロサウルスの頭部が箱から出てくると、その大きさに児童たちは大興奮。児童たちは一生懸命にスケッチしていました。

恐竜は羽毛がある

7月8日、久慈琥珀博物館施設内で国立科学博物館の真鍋真研究主幹を講師に「最新恐竜学」と題して講演会が開催されました。講演会には児童から70歳代まで幅広い年代が参加。恐竜に羽毛が生えていたことや一つの穴からふん尿を排せつしていたことなど恐竜の生態が説明されました。恐竜の歩き方・立ち方など手振りを交えながら解説する講師の話を参加者らは熱心に聞いていました。

太古の地層を発掘

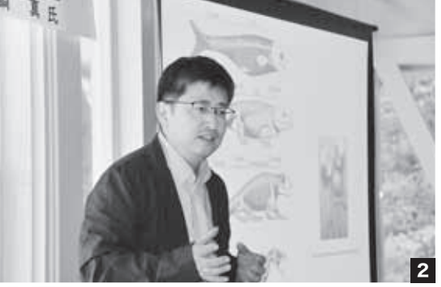
講演会終了後、同博物館の採掘体験場で記念採掘体験教室が開催されました。採掘体験には、太古の地層から琥珀と恐竜の化石発見を目指して35人が参加しました。

同博物館の滝沢利夫さんから説明を受けた参加者は、一斉に体験場に散らばり、地面とにらめっこ。数分後には会場のあちこちから「あっ、見つけた！」と歓喜する声が聞こえ始めました。

驚きと喜びの発見

採掘体験終了10分前、「琥珀じゃなさそうだけど気になって」と一組の親子が円柱形が欠けたような石を真鍋教授らに見せると、真剣な表情に。歯化石発見者の佐々木さんがルーペで確認し、化石であることが判明すると周囲は驚きと喜びに包まれました。（化石の種類など、詳細は現在鑑定中です）

化石は実際に発見されています。次に恐竜の化石を発見するのは、あなたかも―。



1／これ見て！琥珀じゃないかな？
2／最新の恐竜に関する情報を説明する真鍋講師
3／この日見つかった化石。何の化石かはただ今鑑定中です

化石を手に満面の笑顔

化石発見！やったネ!!

岩渕　陽斗くん　（花巻市・小学2年）
岩渕　久美子さん（花巻市）

恐竜が大好きだったので参加しました。琥珀は見つかりませんでしたが、化石が見つかりいい記念になりました。

INTERVIEW

思ったより黒い

ティラノサウルスに似ているけど、手が長い気がします。化石は思ったより黒くかったです。

中村 光沙ちゃん（左）（小袖小5年）
中村 彩乃ちゃん（右）（小袖小4年）

大きくて驚いた

化石は大きくて驚きました。久慈でも化石がたくさん発見され、恐竜で有名なまちになってほしいです。

村塚　稔くん（小袖小5年）

独立行政法人国立科学博物館
事業推進部連携協力課長
高尾　敏史

元気と自慢のきっかけに

復旧復興が進み、普通の生活に戻りつつある中で、被災地の皆さんを元気づけ、ちょっと出かけてみようかと思えるようなきっかけになればいいなと思います。

今回の歯化石発見を想定していたものではありませんでしたが、ホットな話題が合わさって驚いています。岩手県内は恐竜の化石も発見されており、この分野では非常に進んだ場所です。子どもたちには、地元の独自性や自分たちにも自慢できるものがあるんだということを考えるきっかけになることを期待したいと思います。